

平成 30(2018)年度 学力向上検証委員会のまとめ

1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

2 期日

- ・第1回 平成 30 (2018) 年 8 月 28 日 (火)
- ・第2回 平成 30 (2018) 年 12 月 12 日 (水)、平成 30 (2018) 年 12 月 17 日 (月)
- ・第3回 平成 31 (2019) 年 2 月 4 日 (月)

3 会場

県庁舎北別館 401 会議室、小山市立小山中学校、大田原市立紫塚小学校

4 学力向上検証委員

12 名（大学教授 2 名、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、市教育長部会代表、町教育長部会代表、県 P T A 連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表）

5 主な意見

(1) とちぎっ子学力向上応援団派遣事業について

- 県内外の効果的な取組など外部からの情報を得られるので、学校経営、学力向上において大変有効である。
- 市町が県と一体となって課題解決を図ることが大切だと思われる。

(2) 学力向上推進リーダー配置事業について

- 学力向上推進リーダーは、国語や算数だけとはいえ、複数の学校において多くの先生に関わるので、大変な仕事だと思う。しかしながら、実際に授業者に寄り添うことで、若い先生は伸びていくと考えられ、特に新規採用や臨時採用の先生方にとって、大変ありがたい事業である。
- 学力向上推進リーダーの役割について考えていく必要があり、配置校の学習指導主任とどのように連携を図っていくのかなど、学校の学力向上の体制が強化されることが大切と考える。

(3) とちぎっ子学習状況調査について

- 次年度も調査の大枠が変わらないのはよいと思う。また、復習・発展用教材が調査対象以外の学年にも提供されるのはありがたい。
- 本調査の良い点は、本県独自の課題を捉えて出題することである。次年度は委託業者における標準版の問題を基本とした出題になるが、問題作成に当たっては、問題検討委員会を経て本県の課題をできるだけ反映していけるようにしてほしい。

(4) 保護者への啓発について

- 保護者に対して効果的に啓発できるよう、啓発資料の配布時期や方法、内容等を精査してもらいたい。

6 委員長の総括

本事業は 5 年目を迎え、各学校での組織づくり等の取組が定着してきているため、検証改善サイクルの構築、教員の意欲・意識の向上に関する内容に限らず、実質的な授業改善に資する具体的な取組に関する意見を多くいただいた。

とちぎっ子学力向上応援団派遣事業と学力向上推進リーダー配置事業により、教員の授業改善に向けた取組の充実が図られていることが確認できた。とちぎっ子学力向上応援団派遣事業は今年度で終了になるが、本事業の成果と課題を踏まえ新規事業につなげてもらいたいとの意見が出された。また、学力向上推進リーダー配置事業では、学力向上推進リーダーの負担を考慮してもらいたいとの意見が出されているので、事業の充実に向けて十分に検討してほしい。

今後とも、県教育委員会は市町教育委員会と連携し、本事業に関わる施策の実効性を高めることで、児童生徒一人一人の学力向上に向けた取組の改善・充実を図ってほしい。